

DoKoネット

- 同志社大学工学部同窓会報 -
第6号(2004)



What's New!

2004年度第17回工学部同窓会リユニオン
2004年11月7日(日) 今出川キャンパス

第1部 10:00 ~ 同志社大学ホームカミングデー2004
第2部 13:00 ~ 14:00 工学部同窓会総会
第3部 16:00 ~ 卒業年グループリユニオン

- 卒業年グループリユニオンの世話役を同窓会事務局までご推薦下さい -

2004年度のリユニオン第3部は各卒業年グループごとにお集まり願いますが、特に5N周年(S24, 29, 34, 39, 44, 49, 54, 59, H1, 6, 11年卒業)の方々には特別に企画いただく予定となっております。詳細は下記ホームページでお知らせします。

ホームページを開設しています

<http://www1.doshisha.ac.jp/kogakubu/dosokai/>

(URLのはじめはwww1ですのでご注意ください)

このページは工学部からのお知らせと共に工学部同窓会リユニオンの企画や卒業生の方々の掲示板としてご利用いただきます。

次号同窓会報”DoKoネット”第7号は2005年2月に発行いたします。

皆様の寄稿をお待ちいたしております。

よく学び よく遊べ

同志社大学工学部同窓会 次期会長
岡 正 太 郎



子供のころ、私達は「よく学び、よく遊べ」と教わりました。これは、簡単で親しみ易い言葉ですが、厳しさと温かさが入り混じった懐かしい思い出と呼び覚めます。最近になって知ったのですが、英国の諺に「All work and no play makes Jack a dull boy.」というのがあって、これが日本にきて「よく学び、よく遊べ」になったのだそうです。正に真意を汲み取った名訳だと感心しています。

「遊ぶ」ことに一際熱心であった私どもは「遊ぶ」方が優先して、ややもすると「よく遊び、よく学べ」ということになりました。いや、「よく遊び、よく遊べ」であったかも知れません。それでも、初めて学術研究らしいものを活字にして貰い、人並みに卒業できたのは、恩師諸先生が根気よくご指導下さったお蔭でした。今でも私の「学び」は同志社大学で始まったと思っています。

顧みますと、私達が卒業した1952年には工学部に同窓会がありませんでした。何かの事情があって、工学部一回生と二回生とが同じ年に卒業したものですから、先輩の同窓生は居ませんでした。したがって同窓会もありませんでした。たしか、同志社工学会は発足していて「工学会が同窓会の機能を兼ねる」というような説明があったと記憶しています。

それから早くも50年余の年月が過ぎました。その間に、わが工学部から毎年優秀な人材が社会に巣立ち、その数は既に32,000余人に及ぶと聞いています。教育課程も充実し、研究活動のレベルも著しく向上して、立派な大学院もできました。キャンパスは今出川から京田辺に移転し見違えるほど立派な環境になりました。このような発展的な変遷に伴って、1995年には改めて工学部同窓会が設立され、さらに2002年には会則を見直して「同窓会は卒業生を、工学会は在学生を対象として活動する」という方針が決められました。現在は同窓会名簿の作成事業が始まっています。このように、私達が「よく学び、よく遊んだ」母校はすっかり様変わりしてしまいました。

ご存知のように、元同窓会会長の加納航治教授は、「DoKo ネット」創刊号(1999年)で「卒業生は、不本意ながら、ついつい母校のことを忘れてしまい顧みなくなっている。同窓会会報を配布するので、母校のことを思い出し繋がりを深めてほしい。」という趣旨のことを述べておられます。私自身、面映く感じながら読ませて戴いた一人ですが、全く同感です。この機会に、私も同窓生(とくに学外同窓生)の皆さんに、「よく学び、よく遊んだ」母校での出来事を何か一つ思い出してくれることを希望します。また、学会・講演会・学内同級生らとの会合や秋のリユニオンなどの機会に、すっかり様変わりした母校、すなわち京田辺キャンパスを是非訪ねて下さるようお勧めします。

そこには、きっと思い掛けない「出会い」があって、その「出会い」は必ず「相互の親睦」や「価値ある交流」に発展するにちがいないと思うのです。

元 島津製作所 専務取締役(1952年機械学科卒)

学科紹介

知識工学科

2003年度は知識工学科が発足して丁度10年目に当たります。今年度の新入生は99名で学部の学生数は474名です。このうち51名が大学院(前期課程)に進学し、在籍者は88名、大学院(後期課程)の進学者はなく在籍者数2名となっています。学位取得者は3名でそれぞれ、大学、研究所に就職されました。また、来年度の卒業あるいは修了予定者の殆どの学生諸君についても既に就職先あるいは大学院進学が決まっています。

情報システム学研究室を指導されてきた三森定道教授が定年退職され、後任に金田重郎教授が就任されました。また、情報数理工学研究室の原田等講師が事故でお亡くなりになり、2004年度より、後任に新しい先生を迎えることとなります。また、アメリカに1年半留学されていた廣安先生も帰国され秋学期より授業、ゼミの指導に当たっておられます。

社会的に情報に関する技術者を多く育成することが望まれる中、知識工学科と連携して新しい学科「情報システムデザイン学科」が2004年度から設置されます。新学科は社会ビジネス情報システム、情報デザイン、情報学とナレッジマネジメント、センシングコントロール、シミュレーションとバーチャルデザイン、ネットワーク情報システムの各分野の技術者を育成することになります。知識や認知等の情報の基礎を担う知識工学科と情報システムと社会との関わりなど情報の応用に重点を置いた新学科が連携することにより情報系の充実した工学部になります。これに併せて、知識工学科としても今まで以上に充実したカリキュラムにするべく努力しています。

2000年度から始まった「知能情報科学とその応用に関する研究」のプロジェクトでは多数の成果が上がっており、講演会や研究会が誰でも参加できるオープンな形で数多く開催されています。関心のある方は<http://www.afis.doshisha.ac.jp>を参照してください。

教務主任 河岡 司

電気工学科・電子工学科

電気系学科では、現在1210名の学生が在籍しています。その内訳は、電気工学科の1年生121名、2年生149名、3年生187名、4年生149名の合計606名で、電子工学科の1年生137名、2年生134名、3年生177名、4年生156名の合計604名です。一方、大学院博士課程(前期)には、162名、博士課程(後期)には、11名が在籍しています。

就職戦線については、昨今の厳しい状況は相変わらずですが、大学院生は比較的順調のようです。この点では卒業生の皆様のご活躍に負うところが多く、感謝致しております。学部生については、自由応募と学科推薦の両面でよく健闘しております。しかし、一部には、就職活動への取組みがまずく、その結果、なかなか就職が内定しない学生があり、厳しい状況もあります。なお、来年度の就職委員は、吉門進三教授です。

今後1年ほどの電気系学科の動きについてですが、教員の関係では、長年にわたり光・電子回路システム研究室で研究指導されました大田建久教授が2004年3月をもって退職されます。先生の長年の功績に対して厚く御礼申し上げます。

学科紹介

す。

また、昨年度の渡辺先生の紹介文にもあるように、学部カリキュラムの変更を来年度生から行います。教育の目標を「充実した基礎学力と系統的な専門学力」にすることに変わりはありませんが、配当年次や必修・選択指定の見直し、科目の統廃合と新設を大幅に行いました。その一環で、電子工学科の柱を信号・情報の変換と処理をテーマとする「情報エレクトロニクス」、情報の伝送をテーマとする「通信システム」に変更し、配当科目の変更を行いました。

教務主任 笹岡 秀一

機械システム工学科・エネルギー機械工学科

機械系学科では、現在 1241 名の学生が在籍しています。その内訳は、機械システム工学科の1年生 135 名、2年生 126 名、3年生 120 名、4年生 233 名の合計 614 名で、エネルギー機械工学科の1年生 145 名、2年生 131 名、3年生 131 名、4年生 220 名の合計 627 名です。一方、大学院修士課程には1年生 95 名、2年生 90 名の合計 185 名が在籍しており、大学院博士課程には 11 名が在籍しています。機械系学科では、2000 年度に開始した両学科共通のカリキュラムにより数学・物理関係の基礎科目と、機械系の材力・熱力・水力・制御・機力の5つの応用科目群を徹底的に教育しており、4年生では大学院科目を一部履修できる新しい制度を設けました。さらに 2003 年度からは大学院において Advanced English 科目を開講して専門英語教育の充実を図っております。

研究室体制は、2003 年度より材料・加工分野4研究室、熱・流体分野4研究室、機械要素・生産・機力・制御分野4研究室、基礎教育分野(数学・物理)2研究室の14研究室体制とし、新たな研究室体制を構築いたしました。各研究室は以下のとおりです。構造力学研究室(藤井透教授・大窪和也助教授)、金属材料科学研究室(御牧拓郎教授・宮本博之助教授)、応用材料工学研究室(今井田豊教授・長谷部忠司助教授)、成形加工研究室(片山博生教授)、伝熱工学研究室(千田衛教授・稲岡恭二助教授)、噴霧・燃焼工学研究室(藤本元教授・千田二郎教授)、流体力学研究室(平田勝哉教授・舟木治郎助教授)、流体工学研究室(水島二郎教授・山口博司教授)、生産システムデザイン工学研究室(青山栄一教授・廣垣俊樹助教授)、機械力学研究室(小泉孝之教授・辻内伸好教授)、制御工学研究室(横川隆一教授・柴田浩客員教授)、機械要素・トライボロジー研究室(坂口一彦教授・小林真造教授・松岡敬教授)、物理学研究室(高岡正憲助教授)、数理工学研究室(浦部治一郎教授・押目頼昌教授)。

また、2004 年度 4 月より1名の COE 教員および1名の客員教員を機械系学科に向かい入れ、環境適合材料分野および分子動力学分野を新たに研究分野に取り入れ、将来を見据えた研究領域の拡大に努力いたします。

なお、2004 年3月末をもちまして、小林真造教授が定年退職されます。先生の長年のご功績に対して機械系教員一同、心より厚く御礼申し上げます。

教務主任 松岡 敬

学科紹介

数理環境科学専攻

本専攻は、工学研究科修士課程の独立専攻(学部学科を持たない専攻)として1998年に発足してから6年目を迎えました。院生は現在53名が在籍しています。その内訳は修士1年生が25名、2年生が28名です。定員は1学年20名です。工学部の諸学科出身の院生が多いのはもちろんですが、同志社大学の文系学部、同志社女子大学、さらには他大学出身者の方々も加わり、数理モデル(大宮真弓教授、押目頼昌教授)、地球環境(林田明教授、鈴木博之教授)、人間環境(松田正文教授、西邨顕達教授、山下正和教授)の3分野では専任教員の指導のもとに、また、その他の分野では工学研究科の他専攻の先生方の指導のもとに、環境関連の多様なテーマで研究に取り組んでいます。また、3年前からは専任教員による工学部学生の卒論指導も行っています。

本専攻が修了生を社会に送り出し始めてから4年経過しました。最近の厳しい経済状況下ではありますが、他専攻の就職委員会のご協力も得て、大企業からベンチャー企業まで、研究分野の多様性を反映して、多種多様な企業にこれまで比較的順調に就職しています。専攻の存在がまだよく知られていない状況もありますので、これから就職先の開拓に努力いたしますが、卒業生の皆さんのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2004年度より工学部に環境システム学科が発足することとなり、新しい教員も就任されますので、将来的には独立専攻としての一定の制約が解消されるものと期待しております。

なお、昨年度の横山先生に引き続き、今年度末で西邨先生が停年を迎えられますが、その後任は新しい環境システム学科の先生方が将来的に引き継ぐこととなる予定です。

専攻教務主任 鈴木 博之

機能分子工学科・物質化学工学科

機能分子工学科では2003年度に133名の新入生を迎え、在籍者は卒論生143名を含め総数599名となりました。物質化学工学科では130名の新入生を迎え、在籍者は卒論生126名を含め総数571名となりました。また、工学研究科工業化学専攻の博士課程(前期)には前年度卒論生の33%にあたる77名が進学し、総数162名となりました。博士課程(後期)では新たに3名が加わり、合計12名が在籍して研究に励んでいます。大学はいま変革期を向かえておりますが、化学系においても研究・教育体制が大きく変わりつつあります。一方、昨今の厳しい社会情勢を反映して、就職もなかなか難しくなっていますが、卒業生の皆様の活躍と教員・在学生の努力で高い就職率を保っています。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

昨年度は越村寛一実験講師が定年退職、田中義文助手が自己都合退職され、古川功先生の後任として伊藤嘉彦先生が、田中幹也先生の後任として土屋活美先生が本年度着任されました。また新任教員として水谷義先生が機能分子工学科に着任されました。伊吹和泰助教授が教授に昇進されました。以下に研究室および担当者を記します。

学科紹介

< 機能分子工学科 > 機能有機化学(加納航治教授・小寺政人教授・水谷義教授), 高分子化学(丹羽政三教授・東信行教授・松本孝広実験講師), 有機合成化学(太田哲男教授・伊藤嘉彦客員教授), 有機化学(山下正和教授・大西慶一郎実験講師), 物理化学(上野正勝教授・伊吹和泰教授・土橋倫昭実験講師), 電気化学(田坂明政教授・稲葉稔助教授・竹村英昭実験講師), 無機合成化学(山口修教授・廣田健教授・芳仲捷実験講師), 数理解析(溝畑潔教授)

< 物質化学工学科 > 粉体工学(日高重助教授・白川善幸助教授・下坂厚子実験講師), 移動現象(森康維教授・土屋活美教授), 計測分離工学(中島理一郎教授・塚越一彦教授・田村隆実験講師), 熱プロセス工学(立脇徳松教授), 生物化学工学(近藤和生教授・松本道明教授), 材料システム(高野頌教授・伊藤正行教授・仁科修治実験講師), 数理解析(堀内龍太郎教授)

なお, 2004 年 3 月をもちまして, 丹羽政三教授, 立脇徳松教授, 芳仲捷実験講師が定年退職されます。長年にわたって研究・教育や基礎実験などに尽力して頂いたことに, 心より厚く御礼申し上げます。

教務主任 森 康維

2004 年度工学部就職委員

	担当者	就職委員室	連絡先
知識工学科	わたなべ よういちろう 渡辺 陽一郎	有徳館東館 YM-223	Tel:0774-65-6249, Fax:0774-65-6809 Email:js-kou1@mail.doshisha.ac.jp
電気系学科	よしかと しんぞう 吉門 進三	有徳館西館 YE-513	Tel:0774-65-6246, Fax:0774-65-6806 Email:js-kou2@mail.doshisha.ac.jp
機械系学科	ふじもと はじめ 藤本 元	有徳館東館 YM-103	Tel:0774-65-6247, Fax:0774-65-6807 Email:js-kou3@mail.doshisha.ac.jp
化学系学科	まつもと みつあき 松本 道明	至心館 SC-207	Tel:0774-65-6248, Fax:0774-65-6808 Email:js-kou4@mail.doshisha.ac.jp
数理環境科学	おおみや まゆみ 大宮 真弓	有徳館西館 YE-219	Tel:0774-65-6250, Fax:0774-65-6250 Email:js-kou5@mail.doshisha.ac.jp

就職関連資料室: Tel:0774-65-6240, Fax:0774-65-6805
Email:jt-shshk@mail.doshisha.ac.jp

ひとことエッセー

ある日親戚の家にて

1999 知識卒 / 2001 年知識修

小畑 陽一

先日親戚を訪ねた折、そこのおじいさんから一枚の色紙を頂きました。「そのうち」という詩が書かれていました。相田みつをの詩なのですが、人生の先輩から贈られたことと相俟って強烈に印象に残っています。「・・・そのうち仕事が落ちついたら そのうち時間にゆとりができたなら そのうち そのうち そのうちと できない理由をくりかえしているうちに 結局は何もやらなかった 空しい人生の幕がおりて 頭の上に 淋しい墓標がたつ そのうち そのうち 日がくれる いまきた この道 かえれない」

丁度仕事が佳境だった私は、まさしく「そのうち」状態で、「この仕事が落ち着いたら、せっかく関東にいるのだから足を伸ばして東北旅行をしようか、海外に行こうか、家族サービスもしないとなー...」等と考えていました。でも前のプロジェクトが終わったときも、結局どこにも行かなかったなあ。

仕事でもまだまだ自力に不足を感じる事が多々あります。場面により求められるスキルが異なるので、その場で必死にキャッチアップするしかありませんが、「一段落したら体系立てて整理をしようか、その道の資格を取るうか」等と考えています。しかし一段落したら、それは次の仕事の始まりで、「そのうち、そのうち」

思えばカレンダー通りに夏休みや春休みが来た学生時代と比べて、社会人になってからは休みのコントロールも、勉強のタイミングも自分次第。サークルの合宿案内には集合場所と時間が書かれていて、そこに集まることに不思議はありませんでした。社会人になってから頂く招待状には必ず「万障お繰り合わせのうえ」が付いています。これは「(各自、自分で)万障お繰り合わせのうえ」なのだという事を最近痛感します。

しかし、裏を返せば自分にはやりたいことが山積みで、強化したい弱点もとりあえずは見えているということ。これはこれで幸せで、まだまだ「暇だー」とゴロゴロする日は来そうにありません。学生時代の私は何事も着手するのが遅く、「やってみたら意外と面白かった。もっと早く始めていればもっと楽しめたのに」という事が多くありました。「そのうち、そのうち」と思いつつ、楽しいことも、身になることも、配分を考えることも、お膳立てするのは全て自分なのだという事を再認識した親戚訪問でした。

日本ヒューレット・パカード株式会社

ひとことエッセー

独楽（こま）

1972年電子工学科卒業

佐野 良樹

人の一生は独楽に似ていると思う。この世に生れ落ちたときから独楽は小さく回りだす。青春時代には明るく軽やかに回り、壮年時代にはぶんぶんと力強く回る。老年になって回転は緩やかになりやがて倒れて一生を終える。ひとつひとつの会社もまた回転する独楽であると思う。ただしそれは絶対に倒してはならない独楽である。力強く回転するときには従業員に幸せをもたらす、社会に奉仕する。だがもし倒れたときには従業員と家族を含め多くの悲しみを社会にもたす独楽である。しかし残念ながらバブル景気崩壊後日本では数多くの独楽が回転を止め、そして今も倒れつつある。

私は大学を卒業後電機メーカーに就職し、その内の大半を半導体業界に身を置いてきた。

私が入社した頃はまだ高度成長時代が続いていて、会社は他の独楽と同じように回っておれば良かった。一生懸命に回っておれば大きな独楽にはじき飛ばされる事もなく、回る場所を奪われる心配もなかった。しかし今はかつてないほど厳しい競争の時代になった。世の中の変化は激しく強力なライバルが台頭した。取り分け半導体業界では、何を作るかに特化した米国/欧州勢と、どのように作るかに特化しコスト力を強化したアジア勢に挟まれ、1980年代に50%近いシェア誇った日本勢は総花的な戦略であったため、今は30%以下にまでシェア落とし、なお落とし続け、生き残りを賭けた再編を迫られている。

そのような逆境の中、私は勝ち残る道は現在世の中に存在しない付加価値を持った商品、つまりオンリーワン商品を創り出す事であるとして取り組んできた。それは市場の要望を聞いて一番早く製品にするというような意味合いではない。世の中になかった機能を提案し、それによって市場に新たな需要を創り出す事である。例えば私は携帯電話機にカメラを搭載することを社内の携帯電話商品部門に提案した。携帯電話機用のカメラはCCDという光センサー素子と信号処理LSI、そして数枚のレンズを最先端のパッケージング技術を駆使して小さな一つのモジュールとし薄い携帯電話機に搭載可能としている。今では携帯電話機にカメラが搭載されているのは当たり前になったが、当時は電話機にカメラを搭載するという発想がなく、なかなか採用にならなかった。しかし採用された時には大きな需要を創造し、世の中になかったオンリーワン商品となり多くのユーザに喜んで頂いている。今は右を見て左を見て当たり前の商品を作れば生き残れる時代ではなくなった。

もう一つの重要なキーワードはスピードである。例えば携帯電話機は3ヶ月でモデルチェンジが行われる。勝つためには他社より一日も早く新製品を投入しなければならない。以前は4番手、5番手のメーカーまで利益を享受できたが今は1番手のメーカーが大半の利益を占有し、せいぜい3番手までしか利益を得ることができない。このような状況下すべての技術を自前で開発していたり生産していたのではスピードが全く追いつかない。旬の時期に旬のデバイスを供給するには、応用商品の進化を予見し、自分の持たない技術や生産能力を持つ国内外の企業や大学、研究所と協業してそれを補わねばならない。そのためにはグローバル化が必須である。これからはグローバル化できない企業はどんどん後方に取り残される。

1990年代はPCが普及し第一次IT革命と言われた。そのとき利益を享受できたのはCPUとOSを作る事に特化した米国勢と安いDRAMを作る事に特化した韓国、台湾勢であり、残念ながら日本勢は蚊帳の外に置かれた。今は第二次IT革命の時代と言われる。そして商品の主役は新3種の神器と称される薄型TV、DVD、デジタルカメラなどのデジタル

ひとことエッセー

家電製品であり、これは日本が一番得意とする分野である。これらの商品は今後機能的に大きな広がりをもつ可能性を秘めており日本に大きなチャンスが訪れようとしている。こんどこそは戦略なく敗れた第一次 IT 革命の愚を繰り返してはならないと思っている。

そのために最も重要な鍵をにぎるのは人材である。若い学生に期待するところは大きい。しかし、これからの学生に求められるのは知識の豊かな教養人や考え方の画一的な優等生ではない。厳しい競争時代の勝ち組になるための柔軟な戦略的発想法と予見力とグローバルな視野をすでに備えた即戦力となる人材である。国際人としての語学力も十分に身に付けて欲しい。日本という大独楽を元氣良く回すためにはそのような人材育成こそがこれからの大学に嫁せられた大きな責務であると思う。

日本は 10 年に余る長期不況に苦しみリストラ、倒産により職を失った方々もかつてなく増えた。だが朝の来ない夜はない。国際的な競争に打ち勝ち、市況の変化に耐え、非力ながら力を尽くして会社という一つの独楽をより大きくより力強く回し続けたい。

そうする事が日本の元氣へと結びつくと信じて、私の人生の独楽も今フル回転している。

シャープ株式会社 取締役 IC 事業本部長

物事に好奇心を持ち、行動的であれ

1978 年機械工学科卒

今井 寛

機械が好きで自分は機械のエンジニアになるんだという思いで、機械工学科に入学しました。1978年に卒業してローム株式会社に入社して望み通り機械のエンジニアとして20数年が経ちました。

ロームはLSI、トランジスタ、ダイオードをはじめ、半導体レーザなどの光デバイス、抵抗器、コンデンサなど多様な品目の電子部品を開発、製造しているメーカーです。電子部品メーカーと機械エンジニアというと奇異な組み合わせに聞こえるかもしれませんが、実はロームはエレクトロニクスメーカーでありながら、生産ライン（生産システム）の自社開発を行っています。ロームの生産システム開発は単に製造装置の内製化にとどまらず、製品の開発設計と生産ラインの開発設計を平行に進行させて、生産性が高く、品質の良い製品を生み出せるラインを低コストで短期間で構築するというものです。開発された生産ラインは世界中のロームグループの工場においており、毎月数十億個のロームの製品を世の中に送り出しています。

私は入社以来、機械のエンジニアとしてさまざまな生産ラインの開発に携わってきました。中にはローム独自の奇抜なアイデアを盛り込んだ工法を採用して、他社では絶対真似のできないような装置を開発してきました。その結果がロームの高収益に繋がっていると自負しております。

機械のエンジニアとして成功するには、高度な専門知識を身に付けることも必要ですが、それよりもクリエイティブな創造力が最も重要です。頭でっかちで考えてばかりいて行動になかなか移れない

ひとことエッセー

人より、まずは失敗しても良いからすぐに試してみる行動力のある人が結局は優れた機械屋になっています。パソコンにばかり向かってないで、実験用の治具・装置を自分で工夫して作り上げて、その装置を使って実験をするというような経験が重要です。装置を作るときや、実験しているときに次々と新しいアイデアが生まれてくるはずで、このような経験はコンピューターを使ってシュミレーションばかりやっても生まれないものです。

例えば、製品を搬送する装置を開発するとして、人によってその装置はさまざまなものが出来上がります。1個ずつピックアップするのか多数個同時に処理するのか、間欠駆動が連続送りか、モーターとカム駆動かシリンダー駆動か、サーボモーターとボールネジを使うのか、或いはリニアモーターを使うのか、色々な機構がその要求仕様によって考えることができます。これにはそれぞれの要素技術についての知識の引き出しの多さと、創造性が必要です。さらに創造性のある人は、搬送される製品が何故その形状をしているかに疑問を持ち、搬送しやすいような形状に変えていくことができます。これによりトータルの効率の良いもの作りができます。

昨今の技術革新のスピードはすさまじいものがあります。携帯電話やインターネットの普及、デジカメやDVDの展開などは、私が同志社の今出川キャンパスで学んでいた頃には考えられなかったことです。企業が目まぐるしく変わる環境の中で生き残っていくには、開発のスピードアップが不可欠であり、そのためにはフットワークの軽い創造性豊かなエンジニアの育成がなにより必要です。

私は子供のころから機械が好きで、時計や自転車の構造に興味を持ち、ばらばらに分解したものです。小さい頃からの好奇心や興味で機械になじんできたことと、同志社の自由な校風の中でクリエイティブな創造性が培われたと思います。エンジニアを志す人は人一倍物事に好奇心を持ち、行動的になることです。

ローム株式会社 生産システム開発部 部長

御願い

同窓会年会費は2000円となっております。まだ今年度の会費を未納の方は是非ご理解いただき、下記的方式で、ご送金の御協力をお願い申し上げます。

工学部同窓会年会費 2,000 円納入方法

1. 郵便振替 00990-0-151193：同志社大学工学部同窓会
2. 銀行振込 南都銀行京田辺支店(店番 740) 普通預金口座 218806
口座名 同志社大学工学部同窓会 代表者 山下正通
同志社工学会の年会費はなくなりました。

同窓会活動・リユニオン

工学部同窓会活動と

第17回工学部同窓会リユニオンのご案内

同窓会幹事会

このたび、念願の同窓会名簿を同志社工学部と工学部同窓会との共同で発行する運びとなりました。1999年に発行しました工学会名簿を継承いたしまして、昨年来の名簿調査の結果を反映しております。事務局のデータベース管理による編集結果を凸版株式会社の印刷技術で編集いたしております。経費削減に成功し予約者への頒布価格を3000円(前回の価格は4000円)に出来ました。今後、2年に一度の出版や印刷方式の工夫など検討させていただきます。

工学部同窓会活動のこれからに関しましては、総会で選出しました第二回卒業の岡正太郎次期会長を中心に進めて参ります。工学会と同窓会の関係が工学会は在学生中心、同窓会は卒業生中心と分担を明らかにして、両組織が協力して同志社工学部の発展に貢献してまいります。2003年度入学生諸君が卒業する年の2006年4月に入会金を納入して頂くことになっており、会費収入の安定化による財政的基盤を確立できる方向が出来ました。しかし、同窓会費は同窓生会員による納付で成り立ちますので積極的に納入いただくことをお願いいたします。

今年の第17回工学部同窓会リユニオンにおきましても、表紙裏に記載のように開催いたします。昨年と同様卒業生の皆様がキャンパスに集い、クラスメートとの再会と出会いの中で、いっそう母校とのきずなを深めていただきたいと願っております。本年の「ホームカミングデー」は再び今出川キャンパスになります。大学は卒業生歓迎のイベントを企画しており、工学部同窓会も同日リユニオンと総会を開催いたします。また、第3部の卒業50周年の皆様とのゼミ・学年等のクラス同窓会には教室をご利用いただけますので、工学部同窓会事務局へご連絡くだされば教室予約等のご案内をさせていただきます。さらに、会員サービスといたしまして、皆様のクラス同窓会は同窓会ホームページへの掲載と案内状送付宛名ラベル印刷など、事務局でお世話させていただきます。クラス同窓会のお世話はそれぞれのクラスで委員をお選びになり計画くださるようお願い申し上げます。ホームカミングデーでは、毎年興味ある企画が計画されておりますので、お楽しみいただきたいと思います。また、ご参加の皆様には大学が記念品も用意いたしております。

2003年度版工学部同窓会名簿発行

同窓会名簿編集委員会

前回の同志社工学会名簿が1999年に発行されて4年になり、このたび2003年度版の発行の運びになりました。同窓会と工学会の関係がその間に変化をし、工学会と同窓会の名簿発行を同窓会の世話で発行することになりました。

名簿の編集作業の引き継ぎ関係で、卒業年度により名簿調査が不十分な所もあり、次回の発行の際に追加充実させていく計画です。ご容赦ください。調査のための住所が判明している19,724人へリユニオン・総会案内と同時に名簿調査用紙を発送しました。調査返事をファックスで返送するシステムに変えましたのは葉書の場合に個人情報が出ることとをさける目的でした。初期の頃は事務局のファックスは連続して動き通しました。使用漢字を当用漢字などコンピュータで扱える字に変換して使用させて頂きましたので、ご不満の会員もおられることと存じますが、次回以降外字の印刷技術も習得いたしまして修正の方向を検討できればと考えております。ご了解頂きますようお願い申し上げます。発行部数は会員の方からの予約が約1000部で工学会員である在学生諸君への配布を考え、5000冊印刷をいたしました。前回の1999年度版は4千円でしたが、編集作業の効率化により、予約された方への頒布価格を3千円と決めさせて頂きました。

今回の名簿のデータに基づき会社別索引を作りました。次ページの表のように、誤差は含まれておりますが同窓会会員が活躍されている会社の人数100傑を算出できました。



同窓会活動・リユニオン

第16回工学部同窓会リユニオンの報告

2003年11月2日同志社大学のホームカミングデーに併せて工学部同窓会リユニオンを開催し、工学部同窓会総会は司会を青山幹事(機械系)議長を山下正通会長として、京田辺キャンパス知真館2号館(TC2-204 教室)にて13:00から14:00まで総会を開催した。挨拶を石原好之工学部長より頂以下の議題を満場一致で議決した。

[1]2002年度事業報告(大鉢幹事):(1)DoKo ネット第5号発,(2)2002年度総会およびリユニオン開催,(3)会費支払い方式変更を行った。

[2]2002年度会計報告(塚越会計幹事)

[3]2003年度事業計画(大鉢幹事):(1)DoKo ネット第6号発行,(2)2003年度総会およびリユニオン開催,(3)工学会との共同で同窓会名簿編集および発行

[4]2003年度予算案(塚越会計幹事)

[5]次期同窓会会長選任(2004-2005年度):山下会長から岡正太郎(第2回機械学科卒)の推薦があり、満場一致で次期会長に選任。以上総会報告。総会に先立ちホームカミングデーの懇親会があり、紫苑館1階大学生協食堂に集まった同窓生が、工学部コーナーに集まり先生方の参加もいただき懐かしい方々との再会を喜ぶ風景が見られた。総会後は工学部自身が各学科2研究室を研究室紹介の形で卒業生に開放され、同窓会も希望の研究室の見学のお世話をした。

順位	勤務先名	人数	順位	勤務先名	人数
1	松下電器産業(株)	326	51	光洋精工(株)	39
2	三洋電機(株)	268	52	京都市役所	35
3	三菱電機(株)	231	53	松下電子部品(株)	34
4	シャープ(株)	195	54	日新電機(株)	34
5	(株)日立製作所	189	55	日本レクター(株)	34
6	(株)デンソー	152	56	日本ペイント(株)	34
7	同志社大学	149	57	パイオニア(株)	33
8	松下電工(株)	142	58	(株)本田技術研究所	33
9	大日本スクリーン製造(株)	139	59	松下冷機(株)	32
10	日本アイ・ピー・エム(株)	133	60	積水化学工業(株)	32
11	オムロン(株)	132	61	藤沢薬品工業(株)	32
12	トヨタ自動車(株)	122	62	凸版印刷(株)	32
13	(株)村田製作所	121	63	(株)リコー	30
14	(株)東芝	119	64	(株)栗本鉄工所	30
15	ダイキン工業(株)	113	65	(株)大林組	30
16	日本電気(株)	105	66	ブラザー工業(株)	29
17	三菱重工業(株)	104	67	全日本空輸(株)	29
18	三菱自動車工業(株)	94	68	東洋紡績(株)	29
19	大日本印刷(株)	88	69	日立造船(株)	29
20	ダイハツ工業(株)	82	70	住友倉庫(株)	28
21	日本電信電話(株)	80	71	京都大学	28
22	富士通(株)	80	72	松下電子工業(株)	28
23	(株)堺場製作所	76	73	本田技研工業(株)	28
24	川崎重工業(株)	76	74	(株)きんでん	27
25	日産自動車(株)	73	75	(株)森精機製作所	27
26	(株)島津製作所	70	76	カネボウ(株)	26
27	京セラ(株)	69	77	三木産業(株)	26
28	ミノルタ(株)	67	78	バンドー化学(株)	25
29	ローム(株)	67	79	関西日本電気(株)	25
30	ソニー(株)	65	80	大王製紙(株)	25
31	(株)クボタ	65	81	中外炉工業(株)	25
32	沖電気工業(株)	57	82	ニッタ(株)	24
33	(株)神戸製鋼所	57	83	(株)竹中工務店	24
34	村田機械(株)	56	84	東洋ゴム工業(株)	24
35	日本ビューレットバックカード(株)	55	85	東洋製缶(株)	24
36	日本電池(株)	55	86	富士通デン(株)	24
37	アイシン精機(株)	52	87	岩谷産業(株)	23
38	(株)豊田自動織機	52	88	大和ハウス工業(株)	23
39	京セラミタ(株)	51	89	中部電力(株)	22
40	ヤンマー(株)	50	90	ノルディスファーマ(株)	21
41	日本ユニシス(株)	49	91	(株)アールツ	21
42	マツダ(株)	47	92	(株)三井住友銀行	21
43	(株)イシダ	47	93	中国電力(株)	21
44	スズキ(株)	43	94	日本前空(株)	21
45	関西ペイント(株)	42	95	富士電機(株)	21
46	関西電力(株)	42	96	(株)タイヘン	20
47	石川島播磨重工業(株)	42	97	(株)タクマ	20
48	キヤノン(株)	41	98	(株)モリタ製作所	20
49	大阪ガス(株)	41	99	栗田工業(株)	20
50	大日本インキ化学工業(株)	40	100	四国電力(株)	20

第5代同窓会会長に岡正太郎氏を選任

岡正太郎氏略歴:

昭和27(1952)年 同志社大学工学部機械工学科卒業

同年4月 (株)島津製作所入社

昭和32(1957)年 ルイジアナ州立大学デラヘイ教授のもとへ留学

昭和37(1962)年 「ポテンシャル・ステップ電解法による微量分析法の研究」のテーマで京都大学・大学院より理学博士号を取得

昭和58(1983)年 (株)島津製作所中央研究所所長

同上・専務取締役

平成2(1990)年 紫綬褒章受賞

平成7(1995)年 (株)島津システムディベロップメント社長

現在 (株)島津製作所 顧問

京田辺キャンパス・工学部近況

竹の高度利用研究センター

同志社大学工学部は、平成 11 年「竹繊維の抽出と高機能化、複合材料の開発」を目的に文部科学省の大学院高度化推進補助事業の拠点に選定された。平成 15 年度までの5ヵ年に渡って竹繊維とその有効利用の研究を行ってきた。9人の教員が参加するわが国でも類を見ない竹の高度利用に関する研究が開始された。これまで、同研究に参加した教員から「竹の高度利用」に結びつく多くの研究論文が著されるとともに、幾つかの特許も申請されている。また、ヨーロッパで開催された国際会議では竹に関する特別セッションを設けるまでになった。諸外国の研究機関との連携も築きつつある。

これらを背景に、平成 15 年4月、同志社大学には研究開発推進機構のもと、「竹の高度利用研究センター」が設立された。海外の客員フェローを含め、現在 17 名の教員がセンターを構成している。竹の工業的利用を目指して数多くの研究がなされている。学科も研究背景も異なる教員で構成される本センターでは、異なる角度・視野から竹の高度利用、そしてそれぞれの研究内容、成果が議論されている。竹はわが国で唯一の持続的再生産可能な天然資源である。本センターでは、工業的利用が殆どなされていない竹について、その有効利用と潜在的機能の発掘および高機能化を図る科学・技術を体系化する。センターでは次の2つに大別される研究領域を取り扱っている。

(研究領域 1) 竹林保全と竹林育成の科学、新機能発掘および木材代替利用などの有効利用技術開発

(研究領域 2) 竹繊維の有効利用、高機能化技術開発
わが国では「竹林公害」として問題視されている竹ではあるが、その有用性を明らかにすべく、センターでは啓蒙活動も積極的に行ってきた。平成 15 年度の講演、特に一般市民向けの講演・展示は 10 件を超え、漸く「竹林公害」から、「竹資源」への見直しの機運が現れてきた。本センターの認知度も増している。平成 15 年 11 月には、センターの提携先の一つであるベトナムのハノイ工科大学とジョイントして(日本材料学会協賛)「竹の工業的利用に関する国際シンポジウム」も開催した。オランダ・デルフト大学からは、竹の有効利用に関する研究をテーマにインターンシップのため、2人の大学院学生を受け入れた。また、連携先の一つである米国・コーネル大学には現在、本学工学研究科の博士前期課程学生が在籍し、竹と大豆たんぱく質樹脂を使った完全環境適合型汎用材料を共同開発しており、「竹の高度利用研究センター」として多くの実績をあげつつある。4月からは学科新設に伴い、新しい教員が「竹センター」の研究にも加わっていただける。社会に役立つこと

が本学のモットーであるが、身近な竹を持続型発展社会の原動力、資源として「竹」を捉え、その用途拡大、これによる環境負荷低減、例えば CO₂ の大幅な削減に寄与できることを願っている。

(センター長 工学部機械系学科 教授 藤井 透)

情報システムデザイン学科 環境システム学科合格者数

両学科がこの4月からスタートする。各種入学試験を通して下記のように合格者数が決定した。両学科の今後の発展を支援したい。

2004年度 情報システムデザイン学科 の入学試験の状況について

	募集人数	志願者	合格者
一般入試(A方式) 英・数・理 総合型	40	410	221
一般入試(B方式) 英・国・数 総合型	28	213	119
アドミッションズ オフィス方式 による入試(AO入試)	2	3	2
工業高校等推薦選抜入試	1	2	1
指定校推薦入試 (マル甲)	10	21	21
新島学園高等学校 推薦入試	1	0	
学内高校推薦入試 (マル乙)	18	18	18
外国人留学生入試	若干名	5	2
大学入試センター試験を利用した 入試	0	-	-
合 計	100	672	384

2004年度 環境システム学科 の入学試験の状況について

	募集人数	志願者	合格者
一般入試(A方式) 英・数・理 総合型	25	569	255
一般入試(B方式) 英・国・数 総合型	9	249	80
アドミッションズ オフィス方式 による入試(AO入試)	1	2	1
工業高校等推薦選抜入試	1	0	
指定校推薦入試 (マル甲)	5	13	13
新島学園高等学校 推薦入試	1	1	1
学内高校推薦入試 (マル乙)	8	8	8
外国人留学生入試	若干名	2	2
大学入試センター試験を利用した 入試	0	-	-
合 計	50	844	360

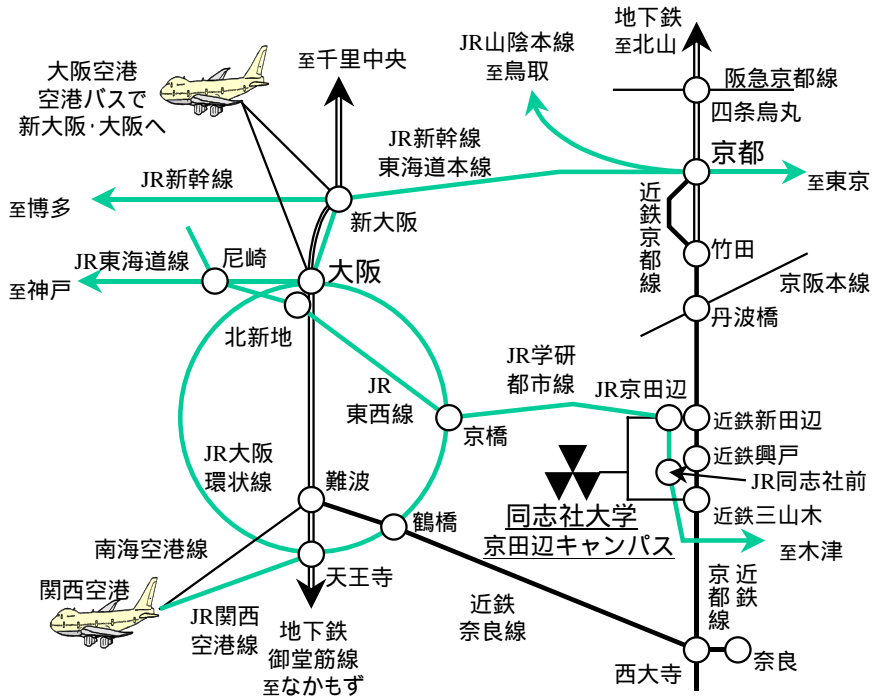
同窓会幹事

工学部同窓会幹事

		氏名	卒業年	所属
会長		山下 正通	S32 工化	同志社大学名誉教授
学外幹事	電気系	上西 勝也	S37 電気	園田計器工業(株)
		藤原 義博	S39 電気	松下電器産業(株)
		橋詰 源治	S43 電気	(株)橋詰気工業所
		小林 正義	S45 機械, S47 修機械	(株)堀場製作所
	機械系	大久保 稔	S56 機械, S58 修機械	ヤンマーディーゼル(株)
		福永 浩	S59 機械, S61 修機械	M M C コベルコツール(株)
		瀧 高弘	S62 機械	出向 三菱マテリアル ダイヤモンドマチック
		篠木 俊雄	S61 機械 II, S63 修機械	三菱電機(株)
		深見 洋司	H1 機械 II, H3 修機械	川崎重工業(株)
		中山 仁郎	S39 工化, S41 修工化	日本ニューマチック工業(株)
化学系	堀内 健一	S49 工化	ニッタ(株)	
	湯浅 智	S53 工化, S55 修工化	日新電機(株)	
	中村 清己	S55 化工, S58 修工化	宝塚市立安倉中学校	
	渡部 広一		hwatabe@mail.doshisha.ac.jp	
学内幹事 (幹事長)	知識	大鉢 忠		tohachi@mail.doshisha.ac.jp
	電気系	長岡 直人		nnagaoka@mail.doshisha.ac.jp
(会計)	機械系	藤井 透		tfujii@mail.doshisha.ac.jp
		青山 栄一		eaoyama@mail.doshisha.ac.jp
	化学系	塚越 一彦		kitsukago@mail.doshisha.ac.jp
		小寺 政人		mkodera@mail.doshisha.ac.jp
監事	(前会長)	坂口 一彦		同志社大学工学部
	(前幹事)	中村 成男	S42 機械	(株)堀場製作所
前幹事 & 前監事	知識	芳賀 博英		同志社大学工学部
		電気系	中野 恵二	S55 電子
	機械系	大田 建久		同志社大学工学部
		戸高 敏之		同志社大学工学部
		汐見 知行	S45 機械 II	三菱自動車工業(株)
		辻 克巳	S45 機械 II	住友電気工業(株)
		田中 達也	S58 機械 II, S60 修機械	(株)神戸製鋼所
		千田 二郎		同志社大学工学部
	化学系	平田 勝哉		同志社大学工学部
		米澤 徹	S40 機械	ヤンマーディーゼル(株)
		東城 哲朗	S51 工化, S53 修工化	東洋炭素(株)
		山口 修		同志社大学工学部
		近持 隆	S41 工化	パクセルインターナショナル(株)
		加納 航治		同志社大学工学部
		田中 義文	H3 工化, H5 修工化	尼崎化学合成(株)

同志社大学ホームページアドレス <http://www.doshisha.ac.jp/>

工学部同窓会ホームページアドレス <http://www1.doshisha.ac.jp/kogakubu/dosokai/>



同志社大学 京田辺キャンパス

〒610 - 0321 京田辺市多々羅都谷1 - 3

工学部・工学研究科事務室 Tel:0774-65-6200 Fax:0774-65-6800

理工学研究所事務室 Tel:0774-65-6220 Fax:0774-65-6804

同志社大学工学部同窓会へのご質問, ご意見あるいは
本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。
同窓会事務局あてご自由に連絡, 投稿下さい。

2004年3月22日発行

同志社大学工学部同窓会

発行者: 山下 正通

〒610 - 0321 京田辺市多々羅都谷1 - 3 同志社大学工学部内

工学部同窓会事務局 Tel:0774-65-6219 Fax:0774-65-6850

印刷: (有)木村桂文社 Tel:075-381-9784 Fax: 075-381-1510